

平成 29 年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口和登

6 月 10 日諫早市のホテルセンリユウにて、平成 29 年度通常総会を 56 名の会員出席(欠席者の委任状は 42 名)のもと開催し無事終了しました。その後、日本技術士会長崎県支部年次大会、そして長崎県工業技術センターの馬場恒明所長(工学博士)、三菱電機(株)長崎支店の寺崎信夫氏(技術士:電気電子)を講師に招いて CPD 研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会に終わることができました。前回は 59 名の参加者がありましたが、今回は 47 名の参加者となりました。

ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容については会員各位には周知済みでありますので、ここでは不参加会員を考慮して総会の状況をご報告申し上げます。

総会は川村副会長の総会成立(会員総数の 5 分の 1 以上の参加で成立)宣言の後、第 1 号議案から第 5 号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。

1. 総会議案

第 1 号議案:平成 28 年度事業報告

原案の通り承認

28 年度の主な実績は、

役員会の年 6 回の定例開催

総会時及び 12 月の研修会(年 2 回)、5 月、

10 月の現場見学会(年 2 回)の日本技術士会

長崎県支部との共催による実施、長崎地盤研

究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年 4 回の研修会、年 1 回の現場見学会への参加
産業基盤維持管理技術研究会の講演会(年 3 回)見学会(年 1 回)への参加
機関紙の年 4 回発刊配信、会員名簿 28 年度版の作成(350 部)会員及び関係機関に配布
会員の増強、平成 29 年 6 月現在の会員数 165 名(13 名の新入会員)長期にわたる会費未納の会員の名簿登録抹消のため、新入会員が 13 名と多いにもかかわらず、昨年より 9 名増の会員数となりました。

その他、公益社団法人長崎県建設技術研究センター主催の「ながさき建設技術フェア 2016」の後援、NPO 技術フォーラム懇話会後援及び長崎大学における技術士会による第 2 回講義の実施:受講大学生 22 名 などです。具体的には長崎県技術士会のホームページの活動状況報告を参照してください。

第 2 号議案:平成 28 年度収支決算、会計監査報告

原案通り承認:具体的な金額等はここでは省略しますが、先般配信した議案書において周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第 3 号議案:平成 29 年度事業計画(案)

原案通り承認

29 年度の主な計画は、

総会及び役員会の定例開催

長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支部共催の研修会の年 3 回開催、現場見学会の年 2 回開催

ジオラボ(長崎県技術士会後援)への年 4 回

の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加

機関紙の年4回の継続発刊配信、会員名簿の昨年同様の350部作成配布

長崎大学との連携強化、学生を対象とした講義への講師派遣、他技術機関との連携

県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。

第4号議案：平成29年度収支予算（案）

原案通り承認：具体的な金額はここでは省略しますが、先般周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第5号議案：長崎県技術士会役員

原案通り承認

今年度は役員改選の年のため、平成29年2月に長崎県技術士会会長選挙のお知らせをしましたが、4月10日までに立候補者の届けがなく、役員案を総会に提案し承認されました。なお、役員構成は長崎県技術士会の平成29年度版会員名簿及びホームページに掲載していますのでご参照ください（写真-1）。



写真-1

報告事項、その他

第3号議案で承認を頂いた、ホームページの更なる改編・充実・活用を図るため長崎県技術士会

情報配信局を新設いたしました（後述コラム）。

2. 日本技術士会長崎県支部年次大会

長崎県支部の年次大会は毎熊支部長の挨拶の後、以下の報告がありました。

平成28年度事業実績

2回のCPD研修会、2回のCPD見学会実施

平成28年度収支報告及び監査報告

収入439,704円、支出372,123円、次年度繰越67,581円

監事による監査報告(3/30実施)

活動方針

会員状況報告、支部活動方針、支部役員構成、事務局

平成29年度事業計画

3回のCPD研修会、2回のCPD見学会の計画

平成29年度収支予算案

収入543,581円、支出485,420円、次年度繰越58,161円

その他報告

九州における支部別部門技術士登録数

長崎県支部の運営についての手引き

長崎県支部役員と所掌事項の報告

日本技術士会九州本部関連は7月に本部の年次大会がありますので、次回(10月)の機関紙で毎熊支部長より人事等を含め詳細に報告して頂きます。

3. CPD研修会

2名の講師による下記の演題でCPD研修会を開催しました。

演題：「長崎県製造業の状況と変化ならびに取り巻く技術動向」

講師：長崎県工業技術センター 馬場 恒明 所長(工学博士)

演題：「世界初の大型映像表示装置の開発力とその継続」

講師：三菱電機(株)長崎支店 寺崎 信夫氏(技術士：電気電子)

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました(写真-3)

上記の研修会の詳細については、5月に開催した見学会を含め、次回(10月)の機関紙で山口昭光理事(長崎県支部事務局長)に報告して頂きます。



写真-2

4. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新入会員7名、講師の馬場氏、寺崎氏を含め44名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の理事である松永光司氏の音頭のもと乾杯し、29年度・30年度の役員、出席新入会員の自己紹介など会員相互の情報交換を行いました。



写真-3

最後は川村昭宣副会長の発声もと万歳三唱を行い、楽しい交流会となりました(写真-3)。以上総会報告を行いました。

「石橋の歴史から見る諫早眼鏡橋-日本を代表する美しい石橋-」の講演会のご紹介

(2) 諫早眼鏡橋の重要文化財としての評価

長崎県技術士会顧問
長崎大学名誉教授 岡林隆敏

諫早市より、「諫早眼鏡橋」の国指定重要文化財の評価をしてほしいとの依頼を受けて、その報告会を2月25日に諫早市美術・歴史館において行いました。この講演会の APREN への2回目の概要報告です。第1回目では、九州における石橋の特徴を紹介しました。第2回目では、本題の「諫早眼鏡橋の重文としての価値」について紹介します。

諫早眼鏡橋が持つ多様な特徴

江戸時代における日本で最長の2径間の石橋(規模の大きさ)

表1は幕末の長大石橋です。諫早眼鏡橋は、石橋が長大化する起点にある。

- 江戸時代に架設された2径間の石橋の中で、現存する最長のものである。
- 幕末に石橋が長大化する過程の初期に架設された、石橋建設技術上重要な石橋である。

番号	橋名	長さ(米)	径間(米)	拱矢(米)	幅員(米)	県名	架設年代	和暦	摘要
1	たけの武之橋	71.0	15.5	5.3	6.6	鹿児島	1848	嘉永元年	五径、五大径橋の一つ
2	相生橋	66.0				熊本	1826	文政9年	
3	御船川目鹿橋	60.0	15.5			//	1848	嘉永元年	二径
4	高麗橋	55.0	12.6	15.5	6.2	鹿児島	1847	弘化4年	四径、五大径橋の一つ
5	高松橋	54.0	12.6	3.0		//	1862	文久年間	二径
6	玉江橋	51.0	11.6	4.9	4.9	//	1849	嘉永2年	四径、五大径橋の一つ
7	西田橋	49.6	11.7	7.3	7.2	鹿児島	1846	弘化3年	四径、五大径橋の一つ
8	諫早眼鏡橋	49.2	18.1	6.4	5.5	長崎	1839	天保10年	二径、明治重要文化財

表-1 幕末の長大石橋

石橋の構造的な特徴(施工の工夫と橋脚や基礎の技術)

- 江戸期を通して発展してきた様々な長大石橋技術が、諫早眼鏡橋に投入されている。

- ・アーチリング結合させる「千切鉄」や「太柄鉄」、側壁を補強する「千切鉄」や「繫石」、さらに瀉土を使った橋脚の技術など、多様な石材の結合技術が適用されている。

橋梁の形態の美しさ（日本の他の石橋にない優雅な石橋）

- ・諫早眼鏡橋は日本で最も優雅で美しい橋梁形態をした石橋である。
- ・写真 1 はキーストンを止めていた千切鉄孔です。図 1 は諫早眼鏡橋の形態である。

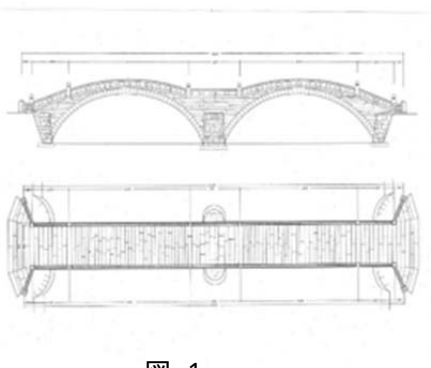


図-1



写真-1 千切鉄孔

- ・江戸時代を代表する美しい橋梁では、木橋では岩国の錦帯橋、石橋では諫早市の眼鏡橋と云える。

都市の橋梁として建設された石橋（山岳の橋梁ではなく都市の橋梁）

図 - 2 は江戸時代の諫早の都市の配置と諫早眼鏡橋の関係を示した地図である。諫早眼鏡橋は、都市の入り口に配置されている。

- ・都市計画的な考えから都市の中心部に通じるゲートに、都市を象徴する形態の橋が架けられている。
- ・高さの低い優雅な橋梁形態が、風格のある都市の景観を構成していた。



図-2 江戸時代諫早市街地と諫早眼鏡橋

諫早眼鏡橋の国指定重要文化財としての価値に関するまとめ

諫早眼鏡橋は、明治維新までに29年の天保10年(1839)江戸時代後期に架設されています。橋長49.2m、2径間の石橋で、江戸時代に架設された2径間の石橋の中で、現存する最長のもので、幕末になり石橋が長大化する過程の、初期に架設された石橋建設技術上重要な石橋になります。

江戸期を通して発展してきた様々な長大石橋技術が、諫早眼鏡橋建設に投入されています。すなわち、石橋を支える輪石を結合する金具の使用、石橋の側壁を補強する石材の結合工法、また、橋脚の基礎に粘性のある瀉土を使った技術など、多様な石材の結合技術や石橋の建設技術に見ることができます。

橋梁の形態から見ると、日本で最も優雅で美しい橋梁形態をした石橋と云うことができます。都市計画的な視点から見ると、都市の中心部に通じるゲートに都市を象徴する形態の橋が架けられて

いるところが、他の石橋に見られない特徴です。建設当時には、高さの低い優雅な橋梁形態が、風格のある都市の景観を構成していたと考えられます。

諫早眼鏡橋は、それまでの石橋技術を集約した、時代の先端を行く現存する日本最長の2径間の石橋でした。平地に架かる石橋として、橋の高さを低くして、アーチの頂部を2つ重ねた、流れるような橋梁形態は優雅でもあります。この橋は、都市の正面にあり、主要街道が交わるセンターに架設され、都市のゲートを象徴する構造物として配置されています。

このように諫早眼鏡橋は、石橋の大きさ(規模)、時代を先駆けた建設技術(建設技術)、橋梁形態の優雅さ(美しさ)、都市計画的な橋の配置(都市計画)などから考えて、日本における他の石橋にない多くの特徴を持ち、国指定重要文化財に相応しい石橋であると評価できます。

講演会では、多くの市民の方々や、行政や橋梁に関係する技術者の方々にご来場頂き、分かり易い話でしたとの感想を頂きました。見えにくい社会基盤構造物(インフラ)の重要性の理解には、先人が努力した建設技術を分かり易く市民の方々に紹介する努力が必要だと改めて思いました。

(了)

新入会員の紹介(4-6月役員会承認)

(区分)	氏名)	(部門)	(所属)	
A会員	山田 清蔵	建設	(株)新栄設計事務所	
B会員	白川 良二	建設	(株)新栄設計事務所	
A会員	佐藤 和仁	森林	(一社)長崎県林業コンサルタント	
A会員	下田 直秀	建設	橋口環境設計(株)	
A会員	鶴岡 誠司	機械	三菱重工業(株)	
A会員	岩崎 尚道	上下水道	岩崎技術士事務所	
A会員	松尾 天	建設	(株)ベック *前回B会員でお知らせ	長崎県技術士会 情報配信局
A会員	寺崎 信夫	電気電子	三菱電機(株)長崎支店	配信担当者:古賀脩一朗
A会員	平岡 透	情報工学	長崎県立大学	長崎県佐世保市柚木元町 2192 番地(株式会社
A会員	櫻村 直樹	機械・総監	三菱日立パワーシステムズ(株)	社長崎地研)

委員就任のお知らせ

日本技術士会九州本部の倫理委員会の委員に清水富夫理事が就任

名誉会員の紹介

29年度の新名誉会員は松永光司氏(建設)、久原俊之氏(水産)の2名

TEL:0956-46-1005

FAX:0956-46-1669

HP: <http://apren.jp/>

配信メールアドレス:

nagasaki.apren@gmail.com

機関紙発行担当者より

(1)H29年度の総会は盛大な中で滞り無く終了しました。会員の皆様のご協力に感謝します。

(2)(公社)日本技術士会は、平成29年6月1日付けで「技術士制度改革について(提言)-中間報告-」では技術士登録制度の更新制度の導入を提言しています(日本技術士会HP参照)。

CPD活動など自己研鑽が求められる技術士の責務は重要になり、当長崎県技術士会など地方技術士会の更なる活動に期待が寄せられることと思います。

機関紙発行担当の連絡先 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com